

白山ふるさと文学賞

第六回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【暁烏敏部門】〈作文「母へのおもい」〉

中高校生の部 優秀賞

## お弁当大作戦

鶴来中学校一年

河野かわの

叶芭とわ

母が作るお弁当が、私は大好きです。

母が作るお弁当は、とてもおいしくて、かわいいお弁当です。例えば、ミニトマトを半分に切って、マヨネーズで水玉模様をかいてうずら卵をくつつけると、きのこみたいになり、ウインナーに黒ゴマで目・口を作つて、くつつけて、コーンで耳をつけたら、クマになります。だから黒ゴマがずれていると、真顔みたいになったり、怒っている顔みたいになつていたりします。

だから、いつも遠足が楽しみです。友達と一緒に食べる事も楽しくありません。おかずを交換する時も、みんなが「いつも、とわのおかず、めっちゃおいしい。とわのお母さん料理うまいね」みたいな事を言ってくれるのがうれしいです。

実は、幼いころ、私は好き嫌いが激しく、ほとんど何も食べられませんでした。そこで生まれたのが、「ほうれん草卵焼き」です。溶いた卵に塩と砂糖と、ほうれん草を入れて、混ぜて、卵焼きにしたものです。ほうれん草が苦手だったけれど、この卵焼きのおかげでほうれん草が克服できました。聞いたただだと、不味そうって思う人もいると思いますが、とてもおいしくて、うちのお弁当の定番です。それに、今ではほうれん草も食べられるようになりました。

私の幼稚園の時の昼食は、火曜・水曜が給食で、それも嫌いなものばかり入っていて、あまり美味しくなくて、一番最後まで食べていた事もあったので、火曜・水曜日だけ行きたくありませんでした。トマトが大っ嫌いでもよく給食に出るので、一度、ミニトマトをそのまま口に入れて家に帰った事があります。その時の様子を母は、家に帰ってもしゃべらないので、おかしいなと思つたら、ほっぺがふくらんでいたのが口元に手をもつていくと、ポロッとミニトマトを出したそうです。昼食は十二時で、帰宅するのが四時なので、四時間口の中に入れていたという事になります。今では笑い話になっていますし、ミニトマトも食べられます。でも、その時は、それだけミニトマトが嫌いだったんだなと思いま

す。

母は、私の苦手な食べ物をお弁当でいろんな工夫をしながら、これってこんなにおいしいんだなと思ってくれることを願って作っていたんだそうです。だから、いつも、私が帰った後、毎日、残っていないか心配でお弁当のフタを開けるのが怖かったそうです。それに、母のお弁当は毎日、手づくりで、冷凍食品をこれまで一度も入れた事がなかったそうです。さぞかし大変だったろうと思います。だから、今は逆に、冷凍食品が食べられません。なんか、冷凍食品はパサパサして、不味く感じます。やっぱり、母の手作りが一番美味しいです。

幼いころから、いつも何気なくおいしいと思つて食べてきたお弁当の裏に、母の思いがこんなにある事を、今回、初めて知つて私は幸せだなと思います。

私は、母のお弁当で、こんな風につくりたいなと思ひ、料理をしたいなと思ひました。今は、私は料理が好きです。今はオムライスまでつくれます。時々、母が夕食をつくっている時にどうするか聞いています。高校生になったら、自分でおいしい、かわいいお弁当がつかれるといいなと思ひています。

思えば、私の好き嫌いは母のお弁当のおかげで少しずつ克服できていくのかと思います。トマトも、ほうれん草も、ブロッコリーも、玉ねぎも食べられるようになりました。玉ねぎは好きな食べ物にもなっています。母のお弁当作戦がなかったらどうなっていたのだろうと思います。きっと、いつまでも好き嫌いが克服されず、給食も苦しくなっていただろうと思います。

結果的に、母のお弁当作戦は大成功だったと思います。一言、今、母に言いたい事は、

「ありがとうございます。お母さんの子供で良かったです。」